



備えあれば 憂いなし とは言うけれど

福祉の現場に安全と安心を！

季節は、まるでつじつまを合わせるように、急に冬の様相をみせてきました。きのうはうららかな小春日和かと思えば、今日はコートが欲しいような日になったり... と。いつもはカサコソと足元に舞う落ち葉に、名残りの秋を楽しむ頃ですが、今年は何れどころではありません。それでも、激しい台風による災害の爪痕も癒えない被災地の方がたには申し訳ないのですが、障害のあるメンバーもふくめ、皆気に暮らしております。

* * *

さて、今年度も前半期が過ぎ、次への課題がせまってきました。

多くの皆様のご支援をいただきながら、重い障害と共に地域で暮らすメンバーの笑顔が、私たちの毎日の励みになっております。“この笑顔が曇らないように”などという月並みなセリフになりますが、本当に、ただその一点で支えられている気がする時もあります。

1999年に、当時としては、まだ先も見えず、危ぶまれた“重度障害者のグループホーム”の夢の実現に取り組みはじめました。当時の趣意書もまだそのまま通用する物だと思っております。

どんなに重い障害があっても、住み慣れた地域で、通いなれた活動ホームに通い、親とは別に公的な支援を受けて、自然に生き生きと暮らしたい。

その実現のためには、およそ思いつくこと全てをやってきた親や、家族の努力、そしてそれを支えてくれた方々の心のこもった力添えがありました。

* * *

今、時が経過し、当時とは社会情勢も変わり、公的な支援も充実してきています。

しかし、ごく当たり前のことながら、事業としてのグループホームの運営、仕事としての支援、変わりゆく障害者の体調への的確な対応、制度の変化への理解と適応等々と、公的な補助を受ける側には、当然の努力も求められます。

また、それは、障害者たちの暮らしを守るためにもっとも必要な事でもあります。

福祉という言葉の、どこか暖かなイメージの裏側は、厳しい姿勢の求められる世界でもあるのです。

しかし、人の原点ともいえるべき重度障害者と真摯に向き合い、その生活を支える人々は、生涯にわたって大きなものを得ていくのではないのでしょうか。

理由があって、よつばホームを離れる人も、また新たにその戦列に加わる職員にも、その力を十分にいかし、大切な機会にしてほしいと思います。

『支える会』の主な活動

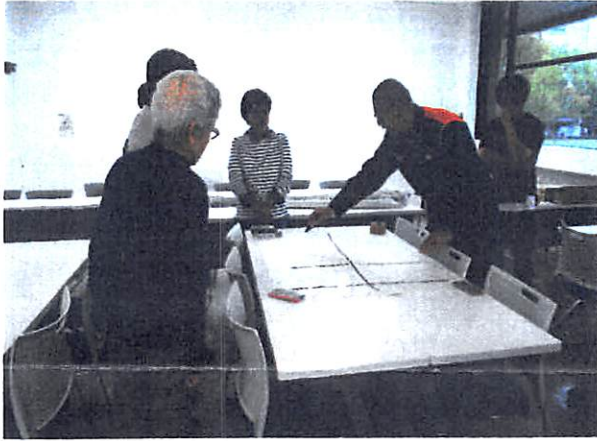
(含・会長、担当者出席関連会議)

※毎週月曜日は、支える会家族会の活動日

- 10月1日よつばホーム新採用職員との面談
- 7日家族会
- 8日よつばホーム運営委員会
- 9日GHよつばホーム職員会議
- 15日GHよつばホーム家族会
- 18日区社協セイフティーネット役員会
- 19日GH事務局会議
- 21日活動ホームしもだ事業会議
- 26日しもだ秋まつり
- 29日研修会・(横浜市市民防災センター)
- 11月1日GHよつばホーム監査
- 6日港北区自立支援協議会
- 10日新吉田西部町会防災訓練
- 11日研修会・グループホームについて
(講師：障害者支援センター田之畑さん)
- 13日GH職員会議

防災に絶対という正解はない

10月29日、横浜市市民防災センターで、
およそ2時間にわたり研修を受けました。
一時間を講義、そのごグループに分かれてグループワークをしました。



地震については、東日本大震災で横浜は最大震度5強を体験しました。

私たちも、横浜ラポールシアターで港北区の障害者作業所連絡会のイベントを開催中でしたが、急な地震の中、シアターの天井に吊られた沢山の大きなライトが大きく揺れに揺れ、舞台の下の収納戸棚が外れたりしました。参加していた障害者や職員たちは比較的冷静にロビーに出て、確認と情報をとっていました。しかし、そのあとが大変で一人一人を送迎車で自宅へ送り届けねばなりません。

道路が渋滞する中で、日が暮れ、停電の暗闇をはしるのとはとても大変だったそうです。

この日、帰宅困難者は20000人余りに上り、防災避難所をあげた所も何か所もありました。その後数日間、停電や、ガソリン不足などがあり、活動ホームでも、閉館するところがありました。今年は、いつにもまして台風の被害が多く、水の災害についても考えさせられました。

また、いつ襲われるともわからない災害時の危機管理について、早急な対策をとっておかねばならないと思います。

* * *

市民防災センターの講義の中のいくつかのポイントをお伝えします。

- 防災には、絶対の正解はない。普段から心がけ、その時その時にしっかり命を守る行動をとること。
- 防災には、終わりはない。しっかりと情報を得て、過去の体験情報をしっかり生かしていくこと。
- 電気による火災（通電火災）を防ぐこと。感震ブレイカーなどの設置。
- 自助、共助の重要性。

地域の活動を知る。

備蓄：食料、水等はローリングストック（使いながら最低3日分は余分に）

安否確認の方法を、知る（171の利用など）

情報の集約、発信。リアルタイムで情報をとる。

地域の特性の把握。（まち歩き→、記録を取る→その記録を基に検討・話し合い）

マンションのトイレは、使用しない。

- 要援護者の支援について

普段できていないことが、急に出来ることは無い。 普段からの訓練が必要。

情報の発信と集約

支援する人の人数が足りないの、その場においても大丈夫にしておく。

最悪のシナリオを考えて訓練をする。

先ずは命を守ること。



* * *

危機管理マニュアルの重要性は、言うまでもありませんが、特に防災等は広く連携が必要な事は、準備も必要な事ですので、活動ホームや他のグループホーム、地域の方たちとの話し合いの機会が大切だとも思います。支える会もこれからいろいろと考えて行きたいと思います。



めがねの声

◇普段の自然はきれいだけど...

しもだの秋まつりの日、知り合いの家に寄ってから、少し遅くかえりました。帰り道が少し渋滞だったので、新横浜の大橋の上から富士山をゆっくりみました。ちょうど富士山の上に沈む太陽が真っ赤な夕焼けで、山の上の白い雲が染まって、みかん色の冠のような、まるで噴火しているようにもみえました。「すごい！珍しい景色ね。」「写真にとって、絵を描きたいな～」と言って感動しました。ラッキー！

私は、子供の頃、養護学校からの帰りに妹のまつ保育園に寄り、歩く訓練をしながら迎えに行きました。時々お迎えを待っていた子供たちや先生と、保育園の庭から大きなお日様が沈むのを見ました。すっかり沈むまで見てから帰ったこともあったのを思い出しました。

私は、今も機会があれば空をみるのが好きです。きれいだし花の色を映しているような春の日、夏の白い雲、秋の空、と季節の移り変わりで少しずつ、雲の様子もかわって、面白いです。

* * *

今年は何回も大きな台風がありました。

その少し前に、大きなスーパーへ活動ホームの食材を買いに行ったとき(*註)です。品物がなく売場がガラガラで、職員たちが『驚きだね』と言っていましたが、私も「うそみたいだ」と思いました。

大嵐の後にも長い停電が続いたり、そのあとの台風では河があふれたり、人が流されたり...。いまま避難生活の続く人がいるといいます。

台風の時、テレビではいつものように、『高いところへ逃げるように...』と繰り返し言っています。でも、私たちのグループホームは一階なので、そんな時はどうしようかなと思います。

いつも思うのですが、テレビでは、なかなか障害者のことはできません。高齢者や障害者は一番助けが欲しい人たちなのです。皆いまどうなっているのか早く知りたい。そしてどういうことに困ったのか、自分たちもどう準備をしたらよいのかを知りたいです。

* * *

私は、この頃一人では電動車いすで出かけませんし、散歩や買い物にも行きません。とても残念だけど、一人で外出しているときに地震があったり、何かあっても、話が出来ないのも、とても困るとおもいます。

ずっと前は、こんなに災害もなく、一人で車いすに乗り、電車に乗って活動ホームにも通っていました。いろいろな人と知り合ったり声をかけていただいたりしたし、坂道の上から“さーと”気持ちよく走るのが好きだった。今は、自然の災害だけでなく、交通事故や、人を理由もなく刺したりする人がいたり、怖い世の中だなと思います。ちょっと寂しいです。重い障害のある人たちも、安心して歩けるようになればいいのにとおもいますが...

* * *

子供の時は、台風はちょっと大変でも、通り過ぎれば次の日はよく晴れて、青い空。雲もなくどこまでも青い空が広がっているのが好きでした。

いまは、地震や台風の後にも大変で、大きながけ崩れや洪水があったりするので、こわいし心配です。

大原友子



↑写真・筆者



(*註)

活動ホーム「しもだ」では、所員の人たちが交代で職員と一緒に車に乗って、給食の材料や調味料などの買い物、印刷物の配達などに街へでかけたりします。

普段あまり外出をしない人も、日常の中で社会体験ができる良い機会となっています。

←写真左・介助用の車イスは一人一人の状態に合わせて作られています

日増しに朝の寒さが身にしみるようになってきました。気温の変化も激しいので、よつばホームのみんなも体調を崩さない様に気をつけていこうと思います。

台風19号

この度の台風および、豪雨により被災された皆様に心よりお見舞い申し上げます。

皆様の一日も早い復旧復興をお祈り申し上げます。

『〇〇年に一度の大雨』この台詞結構耳にするような気がしますが、皆様はどんなツールで気象情報や災害情報を確認していらっしゃるでしょうか？

テレビ、ラジオ、携帯電話等が主だと思います。複数の情報源を確保しておくことは、大事だと思いますが、いずれにしても電気が止まってしまうと、情報を得にくくなってしまいますので乾電池や手動式の充電機等で急場をしのごことも有効です

『自然には逆らえない』とは言え大木が倒れ、生木が裂けるように折れ曲がっていたり、今までにみたことも無いような光景をあちこちでみました。

よつばホーム近くの緑道を通る小川が激流の様になっていたり、『鯉』が打ち上げられていたり、何と流木に『ザリガニ』が5匹絡まってもがいていました。

いつもなら自然に暮らしている生き物には手を触れないのですが、さすがに気の毒になり、流木からの脱出手助けしました。

小川の隅で救出されたザリガニ達は疲れ切ったのか、あまり動きません…。

『ちょっと助けるのが遅かったのかな…？』なんて残念な気持ちで最後の1匹を仲間のそばに置いてみると…5匹全員で私のほうにハサミを振り上げるポーズをとっていました。

『Thank you』v(^o^)^v こんな感じの挨拶だったのかな？と勝手に解釈してみました。



雨が降らないのも困りますが、災害がおこるような降り方はしないで欲しい…そう願わずにはいられません。

防災

台風15号、19号では大きな被害が出ました。断水や停電などライフラインがストップし、生活にも大きな影響がありました。

先日よつばホーム付近で水道工事がありました。その際に夜間断水がありました。

事前に断水のお知らせが来ていたので断水前に水を汲み置きすることが出来ました。それでもトイレの度にタンクにバケツで水を溜めたりと不便を感じました。

グループホームは職員が少なく運営も大変な一面もありますが、みんなで協力して防災について考えていく必要があると思います。備蓄品などある程度の整備はしていますが、専門機関などからの情報を基に見直ししていこうと思います。

